

## 関係資本

多様なステークホルダーとの連携・協働を通じて  
構築したネットワークを活かし、  
グループの総合力を発揮していきます

### 特に関連するマテリアリティ

金融分野の  
市場創造と  
セーフティネット

リスクマネー供給に  
向けた経営基盤強化

## 基本方針

従前からお客様、金融機関、投資家、官庁・地方自治体などの情報交流や利害調整を通じ、多方面でのネットワークを構築してきました。経済・社会が抱える課題の抽出や、投融資等の業務を行ううえでも、こうしたネットワークを活かしています。

自己信用調達の一環として、地域金融機関からの借入を2007年度より開始しました。現在では資金調達の関係のみならず、シンジケート・ローンなどの運用商品の紹介や、M&A機会の創出、協働ファンドの設立など、そのリレーション・ネットワークを深化・多様化させ、資金循環の促進に貢献しています。

地方自治体や地域金融機関などを対象にPPP / PFI大学校・セミナー、国との産官学地域プラットフォーム整備等の企画・運営を行っています。脱炭素化に向けても、地域の協議会に参画して事務局を務めるなど独自の役割を発揮しています。

社会科学分野を中心に、国内外に幅広い学者ネットワークを有し、研究活動・人材育成に活かしています。セミナーやカンファレンスの企画・運営に加えて、DBJ職員や社外からの受入研修生を対象に高度な金融業務を担う人材育成の一環として「DBJ金融アカデミー」を開講しています。

新たな視点でのビジネスを社会や経済に変革をもたらす成長事業として育成することを企図した「女性ビジネスプランコンペティション」の開催や、中立的な立場や広範なネットワークを活かしたイノベーション創出支援の一環である「iHub (innovation Hub)」の活動、スタートアップ企業と大手・中堅企業の連携プラットフォームを提供する「DBJコネクト」など、独自の取組を行っています。

## アカデミア研究成果の社会実装に向けた新たな取組

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園(OIST)との間で、OISTの先端技術研究成果を社会実装することを目的として、2022年に業務協力協定を締結するとともに、OIST-Lifetime Ventures Seed Fundに出資しました。

DBJグループは、アカデミアの研究成果の社会実装には、経営人材の不足に加え、事業化までの時間軸の見極めの困難さの課題を背景に、公共による研究費支援(補助金)と、民間における成長資金提供をつなぐ、リスクマネーが不足していると認識し、これまでも様々な機関と連携してきました。

充実した研究設備や、研究者への複数年度の研究資金配賦などを特徴とする先端的研究機関であるOISTは、2011年の設立以来、産学連携に向けた環境整備を推進しています。DBJはアカデミア連携とファンド出資を組み合わせ、GPであるライフタイムベンチャーズの有する事業化ノウハウを活用することにより、研究成果の事業化やその後の資金支援を含めた包括的な解決に貢献できると考え、その取組を支援しています。